

Europe Indicators

発表日: 2021年11月1日(月)

欧州経済指標コメント: 7-9 月期ユーロ圏GDP

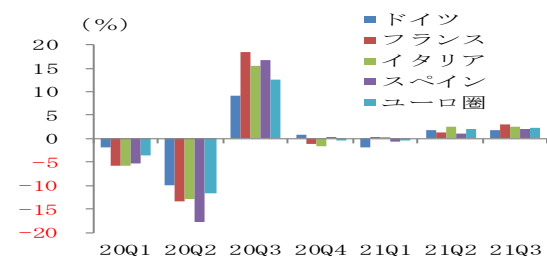
～危機前の水準回復まであと一歩～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

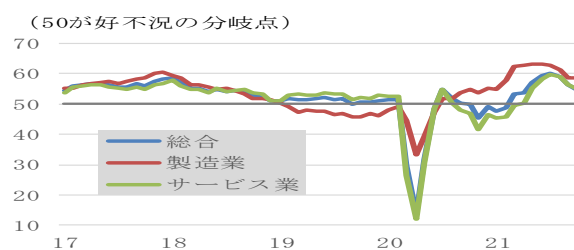
- 10月29日に発表された7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は、前期比+2.2%、同年率+9.1%と、経済活動再開で3四半期振りにプラス成長に復帰した4-6月期(同+2.1%、同年率+8.7%)を僅かに上回る高成長を記録した。7-9月期はフランスやスペインなどでデルタ変異株の感染が拡大した時期と重なるが、ワクチン接種の進展もあり、死者や重症者が抑制されていたため、行動制限緩和と経済活動再開の影響が続き、景気回復の阻害要因とはならなかった。
- 既報の国別計数は、ドイツ(前期: 同+1.9%→今期: 同+1.8%)、イタリア(同+2.7%→同+2.6%)がほぼ前期並みの成長を記録、フランス(同+1.3%→同+3.0%)とスペイン(同+1.1%→同+2.0%)の成長率が大幅に加速した。コロナ危機以前の2019年10-12月期と比べた実質GDPの水準は、ユーロ圏が▲0.5%、ドイツが▲1.1%、フランスが▲0.1%、イタリアが▲1.4%、スペインが▲6.6%。フランスの回復が先行し、スペインの回復の遅れが目立つ。
- 需要項目別の内訳が公表済みのフランスでは、個人消費(同+5.0%)、政府消費(同+3.0%)、純輸出(同寄与度+0.6%ポイント)が成長を牽引し、総固定資本形成(同▲0.1%)と在庫投資(同寄与度▲0.9%ポイント)の落ち込みを上回った。ドイツでも個人消費が成長を牽引した。
- 10-12月期に入って、ドイツ、ベネルクス諸国、バルト三国、中東欧諸国で感染者が再拡大しているが、一部の例外を除けば多くの欧州諸国でワクチン接種が進み、景気回復の阻害要因とはならない。他方で供給制約の長期化でドイツを中心に企業景況感のがピークアウト傾向にあるほか、エネルギー高が家計の実質購買力の目減りにつながることから、成長ペースは鈍化に向かおう。

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率(前期比)



出所: Eurostat

■ユーロ圏の企業景況感(PMI)の推移



出所: IHS Markit

■ユーロ圏GDP(前期比年率< % >、括弧内は寄与度< %ポイント >)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
19/10-12月期	2.1	▲0.0	(8.1)	0.4	1.0	44.6	(▲0.2)	▲8.1	▲0.4	19.3
20/1-3月期	▲12.0	▲13.2	(▲11.6)	▲16.2	▲0.3	▲16.4	(1.1)	▲1.6	▲13.6	▲11.1
20/4-6月期	▲36.3	▲39.2	(▲40.7)	▲42.3	▲10.7	▲58.2	(▲0.6)	1.6	▲56.3	▲59.5
20/7-9月期	54.5	60.7	(50.5)	71.6	24.0	68.1	(▲6.4)	10.1	83.7	55.6
20/10-12月期	1.3	▲1.5	(▲1.3)	▲12.1	3.1	11.1	(2.6)	▲0.2	18.0	20.5
21/1-3月期	1.6	▲1.2	(▲1.5)	▲8.8	▲1.9	▲0.2	(3.7)	0.4	4.5	4.2
21/4-6月期	9.5	8.7	(8.5)	14.5	5.0	4.5	(▲0.9)	0.2	11.1	11.8
21/7-9月期	-	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

